

まんとさく



「新見市学術交流センター」が完成

図書館長 逸見英枝

新見市学術交流センターが、このほど完成いたしました。誠にうれしく思います。

場所は、一号館の傍の山側で三階建てです。一・二階が念願の図書館、三階が研修施設です。全館周囲がガラス張りでもとても明るく、三階からは新見市街が一望できます。一般の方にも利用しやすいようにエレベーターや授乳室が設置されています。

一階は静かな図書館として閲覧コーナー他に学習室を、また二階には、にぎわいのある図書館として、視聴覚ブースや子どもたちへの読みきかせができるねころんぼコーナー等を備えています。新図書館への引越しを終え、書籍が輝いて見えます。本学のそれぞれの学科の特徴を活かした蔵書資料をモットーとし、健康・病氣・介護・教育など困った時には、学術交流センターの図書館に行けばよいという図書館にしていきたいと考えています。三階は、地域と短大を結ぶ場として、交流ホール（二七〇席）を中心に研修室やプレイルームを備えています。

地域と短大が一体となり、世代を越えて学術交流ができる拠点を目指したいと考えています。平成二十年四月六日にオープンセレモニーを予定しております。

同窓生の皆様もぜひご来館ください。



発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方一二六三の二） ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会

地域福祉学科

新見市無形民俗文化財

「土下座まつり」に参加

船川八幡宮のお祭りに参加して

一年次生 脾胃菜美子

二回目の参加でしたが、今回も「湯立の神事」から地域の人々が多く参加され、皆さんが大切にされている行事であることを実感しました。私の地元にもお祭りはありますが、前日からこのような盛大な形で儀式が行われるのを見る機会はないので、ひとつひとつが新鮮に感じられました。また地域の高齢者の方が、子どもの踊りを見ながら微笑んでいる姿も目に入り、地域の人々にとって、お祭りは、様々な世代の人と関わり合える大切な交流の場としての意味もあるように感じられました。

お祭りの雰囲気は、普段とは少し違って、賑やかで楽しそうであり、新見の町並みも新鮮に感じました。普段、新見の大学に通っていても、こんなに地域の人々と関わる機会はありませんので、地域の人と一緒に自分もお祭りに参加できたことが素直に嬉しいと感じました。

これから短大生活を送った後、それぞれが今までとはまた違った新しい環境で生活をしていくと思います。その中で、新しい人間関係もできてくるだろうし、地域の人々と地域を通して関わりをもっていくことだと感じます。今回のお祭り参加を通して、

て、地域の行事に参加していくことは意味のあることではないかと思われました。その体験が地域を知るきっかけになったり、地域の人と関わっていきつかけになっていくのかなと思います。二年間の短大生活の中で、お祭りに参加でき、多くの人が一緒に頑張り合うことの大切さなど多くを知る機会になりました。



地域のつながりを感じた祭り

一年次生 荒本真美

私たちは地域福祉学科の行事として、十月十四日・十五日と船川八幡宮の秋季大祭に参加しました。

十四日夜には船川八幡宮での湯立の神事を見学させていただきました。地元の方もたくさん来られていて、何十回と来ている、と教えて下さった方もいました。その後は境内にも入れていただきました。どちらも荘厳な雰囲気、地元の方々はこの祭りをずっと大切なものとして受け継いできたのだということが伝わりました。

十五日も船川八幡宮へ集合しました。新見の地理がよくわからないため、長い距離を歩くということは初めはとても不安でした。しかし行列を見て声をかけて下さったり、拍手をして下さる方が多く、最後まで楽しく歩くことができました。そして伝統行事のすばらしさを実感しました。現代では地域のつながりが希薄になっていくといわれていますが、この祭りを通して地域のつながりの大切さやあたたかさを学ぶことができました。地域福祉学科に在籍しているということ、介護だけでなく、背景にある社会や地域についても、今後の勉強で詳しく学んでいきたいと思えます。



介護教室

平成十九年八月二日に、新見市高尾ふれあいセンターで家庭介護者のための介護教室が開かれ、地域福祉学科から松本講師と松永助手が講師として参加しました。約四十名の参

加者が、「何事もやってみないとわからない」「ちよっとしたコツで介護もしやすくなる」と熱心に取り組まれていました。

母校自慢

第7回

*島根県立飯南高校

緑あふれた町の学校

一年次生 板持恵理

私に通っていた飯南高校は、全校数約百五十人で、二クラスしかない小さな学校です。でも、一人一人とも仲が良く、先生との仲も親密です。また学校の周りは緑に囲まれていて、とても自然豊かで、毎日伸び伸びと勉強や部活動に励んでいます。飯南高校では、一年生のときに、国際交流という名の修学旅行があります。行き先は韓国で、四泊五日で韓国の高校生と交流したり、ロッテワールドという遊園地に行ったりしてとても楽しく、修学旅行は自慢の一つです。

また飯南高校では、近隣の二つの中学校と中高一貫教育をしており、文化祭を見に来てもらったり、地域の国道のゴミの清掃などを一緒にしたりしていました。また、私が所属していた吹奏楽部では、土・日に一緒に練習したり、毎年演奏会やコンクールなどを合同で行っています。中高共にとても仲良しで、楽しい自慢の学校です。

幼児教育学科

第四十八回中・四国保育学生 研究大会に参加して

一年次生 江藤綾華

私はこのような大会があることを初めて知り、二千人もの学生が参加していることに驚きました。今回は当番校ということで、前日から準備をしました。建物や部屋の位置を覚えることは大変で、自分がきちんと誘導できるのか、とても不安を感じたままで当日を迎えました。

主に一年生は案内係の担当でしたが、誘導の仕方や言葉使いには大変苦労しました。相手に分かりやすく説明する方法や気持ちよく感じられるような態度、挨拶など、当番校としての対応について考えさせられました。また、他大学の学生の姿は学ぶべき姿や、その場にふさわしくない態度など様々でした。たった一人の行動でもその学校のイメージが変わってしまうので、一人ひとりが自分の行動に責任を持たないといけな

いと感じました。先輩方は、舞台の照明や音響のお世話をされていました。常にテキパキと学生主体で動かされており、その姿を尊敬すると同時に、学ばなければならぬと感じました。大道具を運搬する時の先輩の姿を拝見する機会があったのですが、嫌な顔や疲れた表情を一切されないのを見て、自分も頑張ろうと思いました。

そのような姿から、先輩方は当番校としての自覚が私たちより大きいと実感しました。その姿はやらされているという感じが全くなく、自分で運営しているように考えられているように感じました。

他校の発表からは、練習を重ねた努力や頑張りを感ずることができました。また、子どもが見ても楽しめるように考えていることが伝わってきました。この様に、同じ目標を持つ人が集まり発表することは、お互いにより刺激になると思います。それに、同じ目標を持つ人と関わり、頑張っている姿を見られることを嬉しく思いました。

今回、一年生のうちにこのような大会に携れた上に、運営側として参加できたことは、貴重な経験となりました。この経験を生かして来年の大会に臨み、発表者となることで、達成感や満足感を味わいたいと思います。

岡山県下八大学による教育実習 ポスターセッション開催される

平成十九年十二月十五日(土)に岡山大学にて「岡山県下八大学による教育実習ポスターセッション」が開催されました。これは本学も共同申請校として参加している教員養成GP事業の一つです。共同申請校の学生たちが、実習で学んだことを発表しあって交流を深めました。

本学からは一年次生四名、二年次生十三名、教員九名が参加しました。発表テーマは「二歳児の遊びと保育

士のかかわりについて」「研究保育の振り返り」「施設実習事例研究」「幼稚園教諭の観察・環境構成について」「五感を働かせた保育」〇歳児クラスでの保育実習を通して学んだこと」であり、他大学学生と具体的な意見交換や活発な交流を行いました。

学生は他大学の学生も同じように実習中に悩んだり奮闘したりしていることを知りました。また、他大学の実習体制や校風の異なる点も感じることができたため、学生や教員にとって大変有意義な時間を持つことができました。



卒業生との情報交換会を 楽しみにしています

平成十八年度、本学の教育改善における取組「実践力を高める保育者養成システム」が、文部科学省より

「特色ある優れた取組」に選定され、財政支援を受けることになりました。その補助事業の一つとして、昨年度から「卒業生との情報交換会」を計画し、第一回を島根県、第二回を岡山県で行いました。

両会とも、当日は約二十名の同窓生が集まり、懐かしい話に花が咲きました。そして、近況を報告する中で、身近に心強い同窓生がいることに改めて気付いたり、同窓生と本学との繋がりが更に深まったりと、とても有意義な会となりました。

本学も、今年で創立二十九年目を迎え、様々なことが変化しています。が、教員や学生が母校愛を持ち、真摯に物事に向かう姿勢は今も昔も変わりません。そして、このことが文部科学省から高い評価を得た大きな要因にもなっていると思います。

同窓生の皆様の思いを引き継ぎ、本会が皆様と短大の発展に少しでも貢献できることを願いながら、三月に開催予定の「愛媛県地区情報交換会」を楽しみにしています。



絵・立道伊代

看護学科

特色ある大学教育
プログラムに選定されて

小野晴子

平成十九年度の特色GPに選定されました。取組の名称は、「質の高い看護職のための看護研究」です。

この取組の特徴は、六つあります。①一九八〇年の開学以来二十五年間継続してきたこと。②学生一人一人が関心のあるテーマを選定。③担当教員は数名の学生を一年間指導。④学生自ら研究フィールドを開拓・交渉。⑤一人一編の論文を作成し集録集を発刊。⑥研究発表会の開催・運営など、これらの過程を学生全員が主体的に行っていることです。

この取組の効果は、専門職としての研究的態度や、能力を育てるだけでなく、臨床現場での「問題解決能力の育成」や、「コミュニケーション能力の育成」、「プレゼンテーション能力の育成」につながり、質の高い看護職を養成することです。

選定の理由は、「看護研究」を長年継続してきた実績と学生が主体的に課題を発見し、取り組んできたこと。そのことを通して、関係部署との連携、社会性や礼儀など、さまざまな効果もたらされていることでした。特に「教育研究会発表会」や「ランチョンセミナー」の実践は、教員の質の向上につながり、教員自らが研究に取り組む姿勢は学生の研

究的な姿勢の教育になると評価されました。本学の「看護研究」の教育に携わってこられた多くの皆様に感謝いたします。



第十三回NCS開催される

白神佐知子

二〇〇七年十一月九日「在宅でターミナルを支える家族のケアー患者と家族の意思を尊重し最期の日々を支える」のテーマのもとに第十三回NCS (The Nursing college seminar) が開催されました。

このNCSは一年生が初めて実習に出る前の戴帽式に代わる会として始まり、医療に携わる様々な分野から講師をお招きして看護とは何かを考えるセミナーです。企画・運営は、二年生の委員が中心となって担当しています。今年は三名の講師の方に

お越しいただきシンポジウム形式で行われました。看護師の立場から、緩和ケア病棟で勤務されている方より、家族や患者の気持ちを大切にすることで信頼関係が築け、患者が在宅で安らかに死を迎えることができるとお話をいただきました。訪問看護に携わられている看護師の方からは、看護師自身が強い気持ちをもってその場に臨むことの大切さを教えていただき、そしてご家族の立場からは、家族を最期まで温かく見守り、笑顔で毎日を大切に暮らしていくことの大切さを学ばせていただきました。それぞれご本人の体験を基にしてターミナル期にある患者、家族のケアについてお話をいただき、開催後のアンケート調査では、「ターミナルケアの理解が深まった」「患者・家族の心の支えになりたい」など看護に関わる者としての自覚が深まったセミナーとなりました。



科目紹介「自然科学Ⅰについて」

宇野文夫

高等学校における科目選択の多様化・個別化で、基礎知識を十分に習得していない学生を見かけるようになりました。そこで、科目を見直し、総合科目として自然科学Ⅰ（必修）と自然科学Ⅱの二科目を新たに開講しました。このうち、自然科学Ⅰでは、生化学・微生物学等を学ぶために必要な基礎知識を学べる内容にしました。まず医薬品の濃度について学びます。医療現場では、重さを量るのはむずかしく、体積はメモリで簡単に量れるので、溶液のパーセントでも一般と計算の仕方が異なるからです。原子量・分子量の基礎を復習してから、浸透圧を学びます。次に、生化学の基礎知識として、アミノ酸、糖、核酸など身体を構成している物質の構造や性質を学びます。この科目によって、専門科目の学習が円滑に導入できることを期待しています。後半の内容は、非常勤の先生が担当しています。



絵・八幡加奈恵

地域看護学専攻科

公衆衛生看護研究を終えて

村上由花

発表を終えて、気づけば九カ月があつという間に過ぎていました。四月はなかなかテーマが決まらず、十二月の発表に間に合うのだろうか。と毎日焦りながら過ごしていました。そして、七月は初めての調査票作りのために文献検索や施設との連絡などで転がる石のように毎日が通り過ぎていました。八月十一月は統計処理や論文作成に追われていました。論文作成中は調査票の不足している部分に気づく等、反省することばかりでした。研究を通して、「分からない・できない」ことでも何度も向き合っていくことで新たな発見や学びにつながる事がわかりました。今回の学びや課題を生かし、新たなことから逃げず挑戦していく姿勢を大切にしたいと思います。最後になりましたが、夜遅くまでみんな頑張ったこと、研究にご協力いただいた方々に感謝いたします。



母子クラブに参加して

児玉貴恵

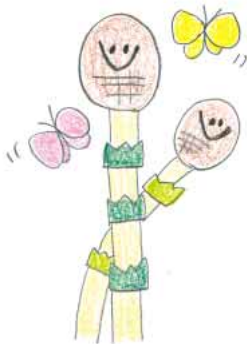


これまでは、地域の高齢者を対象とした健康教育を実施してきましたが、今回初めて母子クラブに参加させていただく機会がありました。インフルエンザについての講話と手遊びを実施しました。普段、育児をされているお母さんたちや乳幼児に関わる事が少ないので、最初はとても緊張しました。しかし、優しいお母さんたちと会話をしたり元気づけたり子供たちと一緒に遊んだりしていくうちに緊張もほぐれ、安心して健康教育を行うことができました。色々な関わりを通して、お母さんとも子どもたちが楽しんでいる様子を見て私自身も楽しい気持ちになりました。今回の経験を通じ、お母さんと子どもたちの様々なコミュニケーションのとり方や子どもを育てることの大変さや素晴らしさを実感することができました。四月からの実践に生かしていきたいと思えます。

新見公立短期大学G.P 教育実践フォーラム開催される

平成十九年十月十九日(金)新見市まなび広場にいみ大ホールにおいて、全国の大学関係者や新見市民、本学学生・教職員など来場者約五百名を迎えて「新見公立短期大学G.P教育実践フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、平成十五年度より文部科学省が全国の大学教育の中から他大学の参考となり得る優れた取組(G.P)を選定し、大学改革の推進を図るために行われている事業に、本学の今までの教育実践や新たな教育プログラムが短大としては全国最多の六件も選定されたことにより実現しました。

六件の取組紹介の後、特別講演では愛知県立大学前学長森正夫先生による「新見公立短期大学の魅力と課題」と題して、またパネルディスカッションでは「地域の短大におけるG.P選定のもたらすもの」というテーマで福山市立女子短期大学学長安川悦子先生など六名のパネリストにより、いずれも「奇跡的な快挙」は何故もたらされたのかという視点で活発な議論が展開されました。



絵・加田淳巴

同窓会の コーナー

同窓会新見支部会設立

新見支部長(一期) 金山時恵

同窓生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。同窓生が集える交流の場を作ろうということから、全国各地に支部が結成されています。新見支部会は平成十九年七月二十五日に発足しました。新見に在住する同窓生は三百名を数えます。発足に当たり二十五名の出席をいただき、「みよしや」で新見支部会を開催いたしました。同窓生の元気パワーに圧倒されつつ、新見で学んだ自信と誇りを大切に受け継いでいかなければと改めて感じました。副支部長は小谷千沙都氏(幼一期)、平和子氏(看三期)、林和美氏(地一期)、幹事三好年江氏(幼二期)となりました。情報交換の場として今後は定期的開催し、つながりをさらに深めていきたいと思えます。

同窓会倉敷支部会設立

倉敷支部長(看七期) 栗本一美

平成十九年十二月一日に倉敷地区と総社地区を対象に「倉敷支部会」を設立いたしました。当日は、二期生から二十二期生までの計十八名の卒業生がご参加下さり、短大より三名の出席で開催致しました。副支部長は中川和子氏(看二期)、森英子氏(幼四期)、幹事は小野英理子

氏(看四期)となりました。皆様の窓口となつていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。今回の倉敷支部会では、初めてお会いする先輩や後輩の方たち、何十年ぶりに会う同級生と情報交換をしあつたり、昔話に花が咲いたり各テーマブルともとても盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。今後も学科を超え、学年を超えて、卒業生の皆様の情報交換の場や新見短大の卒業生としての輪が広がる場として、定期的に開催していきたいと思つております。

同窓会岡山支部会設立

幹事(看一期) 澤田由美

念願の岡山支部が結成できました事は、関係各位にご尽力いただきました賜物と感謝申し上げます。第一回会合は、難波学長、古城学科長をはじめ先生方のご列席をいただき、看護学科・幼児教育学科の一桁回生(一)が集い、和やかな時間を共有いたしました。責任ある役割につきながら、家庭との両立を遂げている同窓生の姿はとて頼もしく、同じ悩みを抱えながらも、皆さん生き生きとした表情をしていました。短大の教育成果を学長から伺い、若い人材を育成しながら、確実に地域に貢献し、必要とされる存在になつていく母校を誇りに思いました。多忙を極める年代に入つてまいりましたが、健康に留意しながら、同窓生の皆さんとのネットワークを発展させていきたいと思ひます。

平成十九年度 卒業研究テーマ一覧

【看護研究】看護学科

- 医療・看護についての意識
 - 心肺蘇生法・自動体外式除細動器に対するA市市民の意識と災害に強い地域づくりに必要なこと 豊田 梨紗
 - 排泄・清潔援助時のプライバシーに関する患者と看護師の意識のずれ 藤田 和子
 - 生活習慣とストレス
 - 看護学生の生活習慣に対する実態調査 大和 由季
 - 看護学生の食生活と家事に対するストレスについての研究 北 奈緒美
 - 看護学生のストレスマネジメントとスキーマ習がストレス解消に与える影響 松浦 裕子
- 小児看護に関するもの(その一)
 - 小児のメタボリックシンドロームに関する食生活の実態と幼少期の子どもを持つ保護者への意識調査 阪本 綾子
 - 小児医療におけるインフォームド・アセントを用いた看護ケアへの効果 清水 麻美
 - アンケート調査による小児の服薬指導の実態と必要性 知久馬 優
 - 基礎看護技術に関するもの
 - 片麻痺のある模擬患者の杖使用による問題点と効果について杖を使用した身体的・精神的問題点と効果 甲斐 功一
 - スライム温罨法の保湿度と心理面からみた有効性の検証 木下美貴子
 - コヒーヒー豆かすによる排便後の臭いの軽減に関する研究 春藤 友香
 - 効果的な手洗い方法の評価と検討 田坂 恵
 - 心肺蘇生法に対する看護学生の今後の課題 長宗 千晶
 - 生と死について
- ドナーカードの所持と選択的人工妊娠中絶について命の尊さを考える 長森 明子
- 死後の処置に家族が参加すること看護士の意識調査を行つて 石丸 叔枝
- 緩和ケア病棟に勤務する看護士の死生観に関する意識調査 藤原真理子
- 女性看護に関するもの(その一)
 - 女子学生におけるボディイメージの認識に関する調査 西原 梨恵
 - 看護学生の月経のイメージと健康に対する意識変化について基礎体温測定を通して 尾崎 令亜
 - A短期大学看護学生の性感感染症とヒトパピローマウイルスに関する認識と意識調査 深江 潮里
 - 婦人科良性疾患患者の心理変化とその援助と子宮全摘手術を受けた患者へのインタビューを通して 福増可奈子
 - 母性看護に関するもの
 - 出生前診断に対する意識と青年期における学生のアンケート調査から 坂本 仁美
 - 赤ちゃん・妊娠・出産に対するイメージと代理出産の関係アンケート調査より 西村 友希
 - 中学生の母性意識と父性意識に関する調査 日野 愛美
 - 学生における妊婦体験インタビューを通して妊婦への援助を考える 山田 佳奈
 - 小児看護に関するもの(その二)
 - 慢性疾患患児とその家族への支援とファミリーサポートハウスの機能と役割 川元 美乃
 - 小児看護におけるプリパレーションツールの変遷 後藤 歩
- 親の歯に対する意識が子の歯磨き習慣に与える影響 末廣 美華
- 気管支喘息の子どもを持つ家族の生活環境の実態 高橋亜紗子
- 少子化対策に関する看護学生の意識調査と諸外国の少子化対策を通して 栗山 靖代
- 看護職のストレスとやりがい
 - 看護学生の対人ストレスイベントとコーピングの比較とA短期大学の一年生と三年生を比較して 篠原久美子
 - 新人看護師のやりがいについて一年目看護師へのアンケート調査にて 濱村 夕紀
- 音楽療法に関するもの
 - 緊張をしいられる場面に音楽療法を用いた効果と小児の処置場面を通して 本田 綾香
 - 音楽療法が精神障害者にもたらす心理的影響と生演奏の前後および病棟の比較 辻原 綾乃
- 老年看護に関するもの(その一)
 - 認知症高齢者の感情に変化を与える要因と援助者の課題とグループホーム入所の日常生活上の関わりから 荒木 洋乃
 - デイサービスを利用している在宅高齢者の家族の介護継続意志と支援の課題 磯村 千香
 - 高齢者の人生回顧を促す関わり意義と文献研究を通して 田上真衣子
 - 老人性難聴者への効果的な関わりと高齢者施設利用者への調査から 宮本 真理
- 糖尿病に関するもの
 - 糖尿病教室に参加した患者の意識の変化 江口 理香
 - 訪問看護を利用している糖尿病療養者と家族介護者の指導について 青木 晴香
 - 健康と生活に関するもの
 - 沖縄県離島に居住する住民の健康と生活 上運天瑞樹
 - 漫画の喫煙シーンが青少年に与える影

響 朝廣 円

●国際看護に関するもの

●国際看護に関する研究の内容分析と今後の課題／過去一〇年間における我が国の原著論文より／ 三宅 慶子

●看護師の現状に関するもの

●看護師の腰痛症の実態と問題点 高田 寛之

●看護師の国際間移動の現状／諸外国の看護基礎教育と更新制度をもとに／ 藤田 彩見

●在院日数短縮に伴う看護の実態と課題

堂上 洋未

●障害者支援に関するもの

●精神障害者の「家族会」の実態と看護的介入／精神障害者の家族と病棟看護責任者に焦点をあてて／ 齋藤 嘉宏

●地域で生活する障害者と家族介護者の思い／障害者自立支援法の施行を受けて地域で働く看護者の役割 藤山 優美

●女性看護に関するもの(その二) 阪神淡路大震災が妊婦・乳児を持つ母親に与えた影響／インタビューをもとに／ 金沢 野亜

●カンガルーケアの有効性／正常新生児とNICU入院児を対象とした比較検討をして／ 西原 千恵

●よりよい乳がん啓発運動をめざして／アンケートをもとに人々へ伝えたい情報 柴田 恵美

●更年期障害を抱える女性が家族に求める支援／更年期症状のある女性へのインタビューを通して／ 與古田 望

●老年看護に関するもの(その二) 高齢者が語るライフストーリーの意味 垣村 寛子

●看護学生の認知症高齢者への意識と周辺症状に対する感情と対処方法 松村 珠美

●認知症高齢者の「繰り返し」の言動が意味することの考察 富田恵梨華

●認知症高齢者の日常生活における自己

決定とその支援／グループホームにおけるケアの分析／ 長野 弥生

●認知症高齢者の在宅介護者の発展過程と支援の課題／続柄別に見た介護の発展過程の違い／ 伊藤加奈子

●終末期看護に関するもの

●望ましい終末期患者の家族支援 大神 千鶴

●終末期患者と家族を支える看護とは／基礎看護学実習Ⅱで受け持った事例より 竹田奈津美

●終末期患者を看取るうえで家族支援のあり方／祖父の事例を通して／ 森本 未来

●指導教員

●専門基礎：宇野文夫 基礎看護：杉本幸枝・土井英子・中山亜弓

●成人看護：逸見英枝・金山弘代・老来看護：古城幸子・木下香織

●小児看護：上山和子 母性看護：貞岡美伸・岡宏美

●精神看護：小野晴子・岡本亜紀 地域看護：栗本一美・掛屋純子

【総合研究】幼児教育学科

●教育学 指導教員 新藤 慶

●子ども同士のトラブルに対する保育者の対応 梶原麻奈美

●幼小連携の現状と課題 中本 歩

●幼保一元化と認定こども園 松本 望

●幼稚園における二歳児保育の現状と課題 矢吹真利恵

●公立保育所民営化の現状と課題 渡邊 香織

●乳児保育 指導教員 三好年江 ●ベビーサインに関する研究 伊藤 文香 ●赤ちゃんポスト設置から見えてきた課題／赤ちゃんポストに対する見解の分析より／ 大西ちひろ ●保育現場における乳幼児の「かみつき」

への対応の考察／質問紙の分析より／ 音無 麻衣

●保育園児の睡眠実態とその背景／保護者への質問紙調査から／ 田中 文子

●手作りおもちゃに関する研究／「牛乳パック」の素材に注目して／ 松田 早苗

●音楽 指導教員 安達雅彦 ●ミュージカル「そうじの国のクリス」の制作 荒田奈緒子・井田加寿美・植村ゆうみ・下吹越理奈・高島 由貴・高田佳緒里・中島 沙織・松本 典子・市丸 就子

●環境 指導教員 斎藤健司 ●室内の落下細菌と行動、服装の関係／保育現場を想定して／ 高木 美奈

●検知管式気体測定器を用いた室内環境調査／二酸化炭素濃度の調査と考察／ 田中 希

●園外保育での動物園利用の現状と課題 桑山 友里・森脇奈津美

●造形表現 指導教員 岡本直行 ●保育室の壁面構成に関する一考察／立体感のある壁面製作を通して／ 阿立恵梨香

●美術館におけるワークショップに関する研究／乳幼児を対象とした取り組みの現状と課題／ 池田 友佳

●小児病棟におけるプレパレーション／キワニストールとぶらぶらウツドを利用した実践例から／ 梶 恭子

●子どもを取り巻く保育環境に関する研究／おわだ保育園の実践より／ 鎌田 百美

●素材別にみたおもちゃとその安全性について／スタンブ法による実験と考察／ 坂本 光

●保育現場で使用される紙に関する研究／種類別にみた紙の特徴と用途／ 西口奈津子

●発達心理学 指導教員 芝崎美和 ●幼児の援助行動と被援助経験との関連 稲月 冬萌

●幼児の援助行動と被援助経験との関連

●幼児の援助行動と被援助経験との関連

●幼児の分配行動における保育者の役割 中村 早織

●対人恐怖と他者とのコミュニケーションの関係 西園喜美香

●幼児の対人葛藤場面における問題解決方略／自己抑制的側面からの検討／ 藤原 京子

●四年制大学と短期大学の友人関係の違いの検討／自己表明と友人との付き合い方それぞれの視点から／ 吉木 翠

●保育者の援助と幼児のレジリエンスとの関係 渡部 倫子

●幼児体育・身体表現 指導教員 片山啓子・渡部昌史

●子どものための舞踊作品の制作／創作ダンス「ぼくらの船！」／ 大石 佳奈・神野 沙織・田中 早帆・遠山今日子・中之園幸恵・藤田 尚子・藤原 綾子・正岡香菜美・水本小百合・森田 薫

●幼児教育 指導教員 片山啓子・渡部昌史・高月教恵

●ストーリーテリングにおける表現技術の一考察 宇田川佳世・大貝 尚子・喜多 香織・夏田 美鈴・二宮 亜矢・室 あかね

●地域福祉研究 指導教員 伊藤博康・松永美輝恵

●介護に携わる専門職の権利擁護についての現状 川上 幸恵

●指導教員 井関智美 ●高齢者の施設入所に対する意識の検討／N市のN地区の高齢者への面接調査／ 清水菜緒美

●山間地域で農業をしている高齢者の農業の実態と生きがい 脾野菜美子

●認知症自立度における認知症者のQOLの検討 本田 仁美

●指導教員 原田信之

●指導教員 原田信之

- 中津祇園における高齢者と障害者の関わりについて～闇無浜神社夏期祇園大祭の調査より～ 居倉 央実
- 日本と外国の老後のあり方～幸せな老後と現代における姥捨ての事例～ 今村 友恵
- 高齢者が次世代に語り伝えたい昔話・物語～語り伝えたい理由について～ 本山 舞
- 「のらくろ」を読んだ高齢者と若者の意見の違い～漫画に対する感受性の比較～ 森下 睦
- 高齢者と子どもの交流がもたらすもの～A小学校における収穫祭を通して～ 安田 真玉
- 音楽が与える施設入居者への効果～職員の方々への聞き取り調査から～ 安政 奈緒
- 指導教員 山内 圭
- 介護の場面に笑いを 押目 和枝
- 老いを楽しむダイバージョンナルセラピー 仲江 美歩
- 在日コリアン高齢者の現状と課題 三上 愛
- アロマセラピーの効果～自然療法による心身のストレス解消について～ 夜久真奈美
- 在日コリアン高齢者を支援する側の医療福祉専門職の課題 山崎 香織
- 指導教員 吉村淳子
- 昔語りの中の音風景～Aさんのインタビューから～ 上田 真美
- 指導教員 松本百合美
- 身体拘束を考える～中国地方の施設へのアンケート調査による実態調査から～ 清水 綾
- 人形を使ったケアの効果を知る 柳田 摩美
- 指導教員 大竹晴佳
- 公共の場に対する意識とマナー違反 奥 麻衣子
- 障害児のいる家族の負担とその支援～軽度障害児の家族に着目して～

- まちづくりの楽しさと若者の参加～地域福祉学科学生に対する意識調査からの考察～ 篠原 光
 - 指導教員 藤井宏明
 - 建築業者にとつての福祉住環境コールドネーターの現状と役割 西岡 奨太
- ### 【公衆衛生看護研究】 地域看護学専攻科
- 指導教員 福岡悦子
 - 夜間固定勤務者の睡眠が生活習慣に及ぼす影響 朽網亜由子
 - 保健医療従事者の喫煙と健康習慣の実態調査 坂本奈保美
 - 性感症の知識・意識からみた望ましい「性教育」のあり方 中川亜由美
 - 地域に住む健康診査未受診者の主観的健康観と保健行動 前田美沙子
 - A看護学校における喫煙状況とその動機からみた禁煙教育のあり方 村上 由花
 - 指導教員 金山時恵
 - 高校生の性意識・性行動からみた「性教育」のあり方 伊波 美来
 - 高校生の生活習慣の実態と有効な健康教育のあり方 大岡 純子
 - 災害時の健康危機管理における保健師の役割 勝俣 暁子
 - 乳幼児をもつ母親の育児不安と夫の育児支援～1歳6ヶ月児と3歳児を持つ母親の視点に立った調査から～ 楠橋 絵美
 - 乳幼児をもつ父親と母親の育児不安・ストレスに関する現状と課題 河道くみ子
 - 育児を行う母親が乳幼児健康診査に求めること 清水 嘉乃
 - 指導教員 矢庭さゆり
 - A市老人大学院における高齢者の生きがいと介護予防 石田 佳世
 - 祖父母との同居経験の有無による高齢者のイメージの違い～高校生へのアンケートを通して～ 岡村 麻美
 - 血液透析患者のシャント閉塞予防のため

平成 19 年度 進路状況

(2月20日現在)

学科	内訳	卒業者数 (人)	専門職 (人)	一般職 (人)	進学 (人)
看護 [26期生]		58	34	0	24
幼児教育 [27期生]		51	43 (5)	0	3
地域福祉 [11期生]		52	35 (2)	0	15
地域看護専攻科 [4期生]		16	16	0	0

() 内は、希望しているが決定していない人数



絵・杉中みどり

めめ自己管理意識と行動 菊井 愛美

- A複合施設の職員からみた高齢者と幼児の交流における相互の影響 児玉 貴恵
- 中山間地域の独居高齢者の孤独感とソーシャルサポートの現状と課題 小林 史恵



寒い日々が続いていた新見の地にも暖かな季節がめぐってきました。春は、新たな出発や新しい出会いの季節です。学生たちは、新見での学び舎から新たなスタートを迎えようとしています。

平成十九年度は、学術交流センターの建設があり、図書館も新しくなりました。専門書だけでなく、一般教養の本など専門職としての充実を図る学び場が増えたことは、とても嬉しいことです。また十月には、G.P教育実践フォーラムが開かれ、今までの本学の取り組み六件が紹介されました。

本学では、地域社会と密着した教育活動を行っています。平成二十年からは、公立大学法人新見公立短期大学として新たにスタートします。今後も地域の方々に支えられ、卒業生・在学生が共に学び合えるよう、尽力していきたいと思えます。

(上山)

編集委員

委員長

原山 信之
金山 時恵
上山 佳子
大竹 晴佳
岡田 直行
村岡 二郎